

保護者 様

大阪府立八尾支援学校
校長 渡部 敏雄

22年度学校教育自己診断結果について(報告)

早春の頃、保護者の皆さまにおかれましては益々ご健勝のことと存じます。さて、昨年10月に配付しご協力いただきました学校教育自己診断の結果について報告させていただきます。なお、今回の分析では、回答における「とてもそう思う・そう思う」を肯定的評価、「あまり思わない・思わない」を否定的評価として捉えることで、今年の学校教育計画に基づく教育活動並びに学校運営に関する様々な取り組みの実態や達成度について診断を行いました。

1. 提出率 (%)

	家庭	教職員
22年度	85	89
(21年度)	83	76

【提出率】

- 家庭・教職員ともに前回(21年度)を上回る提出率でした。
- 回答状況から、子ども・保護者を併せて、「家庭」として実施した効果もうかがえます。
- 質問項目をより具体的に見直したことは、家庭のニーズや新たな課題の発見に繋がりました。

2. 「家庭」診断の集計結果 は70%以上を示す

		%	
		肯定的	否定的
子どもの様子	子どもは楽しく学校に通っている。	91	5
	子どもは友だちや先生と仲良くすごしている。	91	4
	子どもは学校行事(運動会や学習発表会など)を楽しみにしている。	72	17
	子どもは給食を楽しみにしている。	82	12
その他	校内の清掃は行き届いている。	58	31
	校内の施設・設備は整っている。	35	50
	高等部の分離後、施設面の有効利用がなされている。	28	23
	P T A活動は活発である。	65	10
教育活動			
教育支援計画	学校とは「個別の教育支援計画」について共通理解がとれている。	74	16
	「個別の教育支援計画」にもとづいた適切な支援が行われている。	72	17
指導計画	学校とは「個別の指導計画」について共通理解がとれている。	73	16
	「個別の指導計画」にもとづいたわかりやすい授業が行われている。	69	15
授業評価	子どもの実態に合った授業が行われている。	72	18
	担任や教科担当者は子どものことをよく理解している。	83	11
	子どもは授業などに達成感を感じている。	48	22
	子どもは授業をよく理解している。	49	24
安全教育	教科指導における教材や教具は工夫されている。	77	12
	安全に関する指導や訓練(バス・火災など)は充実している。	69	9
交流教育	他校や施設との交流教育を積極的に行っている。	57	18
	居住地における地域の学校との交流を希望している。	43	38
健康教育	給食は子どもの実態に合ったように作られている。	72	9
	給食を通じ、マナー・健康保持など食育に積極的に取り組んでいる。	77	9
	健康に必要な情報(保健だよりなど)は適切に提供されている。	93	3
進路指導	校内でのけがや病気に対して適切な対応がなされている。	80	9
	進路に関する必要な情報を適切に提供している。	67	10
道徳教育	進路に関する悩みや相談に対し、適切に対応してくれる。	49	12
	挨拶や規則を守る指導を日々の教育活動を通じて適切に行っている。	75	9
人権教育	子どもの人権やプライバシーに配慮し指導している。	73	6
家庭連携			
家庭連絡	学校は連絡帳や電話など家庭への連絡をきめ細かく行っている。	88	10
	懇談会や授業参観の機会(回数)は適当である。	84	11
学校運営			
危機管理	門扉施錠や受付チェックを通じて不審者対応に取り組んでいる。	88	3
教員連携	学年やグループ担当者間の連携は図られている。	60	16

3. 「家庭」診断の項目別まとめと記述意見の要約

【子どもの様子/その他】

- 4項目すべてが7割をこえる肯定的評価でした。特に、楽しく学校に通っている、友だちや先生と仲良くすごしているの項目については9割以上ありました。子どもたちや保護者の学校生活に対する期待感や満足度がうかがえます。
- 施設・設備に関する評価については、依然低いものでした。限られた予算で修理や補修を優先的に行なうため、この課題の重要度の実現度が伴わない状況にあります。今年度大きな改善としては、耐震工事に伴う管理棟窓枠の交換（アルミ製）や中庭遊具の補修・撤去などがあります。今後も管理職を通じて府・教育委員会へ改善要望していきたいと思います。
- 分離後の施設の有効利用について「わからない」という回答が全体の半数近くありました。これについては、学校からの情報発信不足を受けとめたいと思います。実際には、小中学部ともこれまで希望していた多目的室や更衣室を確保できたり、授業づくりのための教材室や準備室という部屋の増室ができたことは一定評価しています。

【安全教育/交流教育/健康教育】

- バスを含め災害から身の安全を守る指導や訓練について、7割近くの肯定的評価がありました。
- 交流教育に対する評価については、引き続き充実を図りながら、実施に向けた取り組みなど検討していきたいと思います。
- 給食などを通じた食育の推進について、7割をこえる肯定的評価がありました。特に、健康に関する情報の発信（保健だより等）については8割～9割の高いものでした。保健室および健康教育部を中心とする組織的体制の充実としてとらえたいと思います。

【家庭連携/学校運営】

- 家庭との連携では、いずれも8割をこえる高い肯定的評価がありました。今後も、家庭との連携をさらに深め、教育活動や指導に活かしたいと思います。
- 学校運営における危機管理（不審者対応）については、9割近い高い肯定的評価がありました。学校経営の重点である「安全・安心な学校づくり」という取り組みに対する評価としてとらえたいと思います。
- 子どもに関する理解や情報の共有という点から、教員連携の6割という肯定的評価については継続課題としてとらえたいと思います。

【教育支援計画/指導計画/授業評価】

- 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に関する保護者との共通理解や適切な支援の提供について、すべて7割近くの肯定的評価でした。家庭連携を大切にしながら、取り組むきめ細やかな指導や対応への評価ととらえたいと思います。
- また、子ども理解や実態にあった授業実践、教材や教具の工夫などもすべて7割をこえる肯定的評価でした。昨年の学校教育自己診断を踏まえた「わかりやすい授業の提供」という課題に関して、一定評価したいと思います。
- 授業に対する達成感や理解度などは、客観的な評価の仕方や判断が難しい項目であり、質問方法の再検討を含め、今後の課題にしたいと思います。

【進路指導/道徳教育/人権教育】

- 進路に関する情報の発信については、7割近くの肯定的評価がありました。今年度、新しく取り組んだ小学部保護者対象の「進路説明会」なども評価に反映しているものと思われます。
- 一方、進路に関する悩みや相談の対応では、肯定的評価が5割弱でした。引き続き検討していきたいと思います。
- 道徳・人権教育いずれも7割をこえる肯定的評価がありました。新学習指導要領における道徳教育の推進や人権尊重の教育という点からも、日々の指導や実践への高い評価としてとらえたいと思います。

【記述意見の要約】

家庭（25名）の意見要望について要約しました。

- ①教育環境の整備・充実
- ②障がい児理解
- ③個に応じた集団活動の意義
- ④情報の公開や発信
*学年だより・参観・分離後の教室利用など
- ⑤交流教育の推進
- ⑥行事日の車乗り入れ
- ⑦PTA活動（あり方・持ち方）
- ⑧学校教育自己診断のあり方
- ⑨グループ編成
- ⑩職務等に関する制度上の質問

以上、貴重な意見要望としてとらえさせていただきます。

4. 「教職員」診断の集計結果 は70%以上を示す

		%	
		肯定的	否定的
子どもの様子	子どもは楽しく学校に通っている。	99	0
	子どもは友だちや先生と仲良く過ごしている。	97	2
	子どもは学校行事（運動会や学習発表会など）を楽しみにしている。	99	0
	子どもは給食を楽しみにしている。	99	0
その他	校内の清掃は行き届いている。	34	65
	校内の施設・設備は整っている。	12	86
	高等部の分離後、施設面の有効利用がなされている。	65	27
	分離に伴い、学級人数など過密な状況は改善されている。	26	62
	分離に伴い、バスの乗車時間なども改善している。	24	55
	P T A活動は活発である。	72	7
教育活動			
教育支援計画	家庭とは「個別の教育支援計画」について共通理解がとれている。	72	18
	「個別の教育支援計画」にもとづいた適切な支援が行われている。	75	17
指導計画	家庭とは「個別の指導計画」について共通理解がとれている。	73	14
	「個別の指導計画」にもとづいたわかりやすい授業が行われている。	70	17
授業評価	子どもの実態に合った授業が行われている。	85	8
	担任や教科担当者は子どものことをよく理解している。	88	7
	子どもは授業などに達成感を感じている。	83	4
	子どもは授業をよく理解している。	75	10
	教科指導における教材や教具は工夫している。	88	5
安全教育	安全に関する指導や訓練（バス・火災など）は充実している。	86	8
交流教育	他校や施設との交流教育を積極的に行っている。	61	33
	居住地における地域の学校との交流を希望している。	34	39
健康教育	給食は子どもの実態に合ったように作られている。	79	18
	給食を通じ、マナー・健康保持など食育に積極的に取り組んでいる。	90	4
	健康に必要な情報（保健だよりなど）は適切に提供している。	96	0
	校内でのけがや病気に対して適切に対応している。	98	0
進路指導	進路に関する必要な情報を適切に提供している。	69	16
	進路に関する悩みや相談に対し、適切に対応している。	67	19
道徳教育	挨拶や規則を守る指導を日々の教育活動を通じて適切に行っている。	91	2
人権教育	子どもの人権やプライバシーに配慮し指導している。	84	11
家庭連携			
家庭連絡	学校は連絡帳や電話など家庭への連絡をきめ細かくおこなっている。	97	3
	懇談会や授業参観の機会（回数）は適当である。	91	4

5. 「教職員」診断の項目別まとめ

【教育活動・全般】

★32項目中、23項目が7割～9割以上の肯定的評価でした。特に、■子どもの様子■授業評価■安全教育■健康教育■道徳教育■人権教育■家庭連携などに関する評価は、いずれも7割以上の肯定的評価でした。今年度の重点事項として取り組んだ「一人ひとりを大切にする教育の推進」や「児童生徒の健康安全は学校運営の基礎」という目標の達成度を測る上で大いに参考になりました。

★分離に伴う「教育環境の向上」に関する自己評価は厳しく、教職員の現状認識や課題意識の高さがうかがえます。

★過密化、施設利用や整備など一日も早い改善を求め、管理職・行政職と連携しながら大阪府・教育委員会等へ強く要望したいと思います。

★「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の充実という点では、教職員の評価も保護者と同様、7割以上の高い肯定的評価がありました。互いの共通理解や共有性がうかがえます。

★進路に関する「適切な情報の提供」については、昨年の結果を踏まえた取り組みに一定の成果がうかがえます。今後、学校として進路指導のあり方やとらえ方について、さらに共通理解を図りたいと思います。

★交流教育の充実と推進から、今年度の取り組みに対する肯定的評価はうかがえますが、居住地交流に対する否定的評価（4割近く）については、家庭診断結果も踏まえながら検討していきたいと思います。

6. 21年度との対比（前回と共通した質問項目の肯定的評価を対比しました）

	大きく改善した項目	21年度	22年度
家庭	進路に関する情報の提供	52%	67%
	不審者対応	77%	88%
教職員	校内でのけがや病気への対応	76%	98%
	不審者対応	48%	90%

7. 学校協議会より（2月22日開催）

- 前回は上回る提出率や診断結果に対する肯定的な意見がありました。
 - 授業づくり・授業評価に関して、個別の教育支援計画の活用、指導におけるフィードバックの必要性、教育課程検討の重要性、授業達成感の捉え方などの意見がありました。
 - 居住地交流に関する保護者ニーズの変化や支援学校の取り組みの遅れなど、交流教育のあり方に関する検討の必要性について指摘がありました。
 - 小中における進路指導を充実させるために、保護者のニーズ把握や検討の必要性について意見がありました。
- 以上の提言を踏まえ、今後の教育活動や学校運営に活かしたいと思います。

8. まとめ（次年度に向けて）

まとめ（次年度に向けて）

- 児童生徒と保護者対象の診断から、肯定的評価の高かった**19項目(全体の約6割)**および教職員対象の診断における**33項目(全体の約6割)**については**概ね達成している**ととらえたい。
- 21年度との対比から「**進路に関する情報の提供**（52%が67%）」「**校内でのけがや病気への対応**（76%が98%）」「**不審者対応**（77%が88%）」の3項目における肯定的評価の伸びは評価したい。これらは昨年の診断結果に着目した重点課題であり、進路指導部および健康教育部ならびに生徒指導部などを中心とする全校的な取り組みの成果としてとらえたい。
- 「授業づくり（達成感・満足感）」「分離後の施設の有効利用」「進路に関する適切な相談等の支援」など新たな課題としてとらえたい。
- 最も否定的評価の高かった「施設・設備」については、今後、校内の拡大施設整備委員会を中心に計画的改善に向けた検討を図りたい。
- 診断全般を通して、診断項目の見直しは新たな学校課題の発見や具体化に繋がった。また、前回を上回る提出率から、学校教育自己診断に対する参画意識がうかがえる。さらに、次年度に向けた取り組みや改善策の検討に反映させた。
- 学校協議会からの提言等を踏まえ、次年度の教育活動や学校運営に反映させたい。

*22年度学校教育自己診断については本校のウェブページでもご覧いただけます。

*児童生徒のみなさん・保護者の皆さまご協力ありがとうございました。